

日程 平成 30 年 4 月 21～22 日（北ア）乗鞍岳

撮影者 田口

4/21 新宿駅＝松本＝新島々＝乗鞍高原休暇村 BS＝三本滝 BS＝位ヶ原山荘（泊）



001 スキー場歩き

初夏を思わせるほど気温が高く空は晴れ渡っている。昼食後、標高 1,595m の休暇村 BS をあとにする。雪が消えかかり、地面が露出したスキー場の斜面を歩き始める。雪山シーズンならではのルートだ。



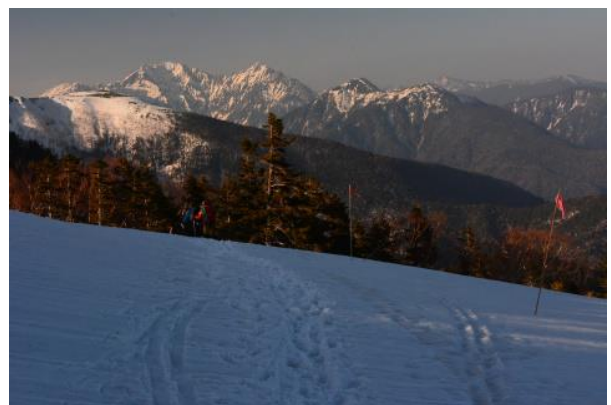
002 ツボ足で

乗鞍高原のスキー場ゲレンデは驚くほどの広がりだ。リフト沿いに歩き、麓の藁が顔を出す三本滝 BS を過ぎると、傾斜もきつくなる。ダケカンバと針葉樹林帯に囲まれたゲレンデをフウフウいいながら登っていく。



003 眩い陽光

風も弱く太陽が照り付けるゲレンデの斜面をひたすら登る。ゲレンデ特有の急斜面が壁のように何度も立ちふさがる。やがて真っ白な乗鞍岳の雄姿が現れる。



004 穂高連峰

休暇村 BS からほぼ直線をトレースするように登ってきたが、標高 2,400m 辺りで右斜めに上がり、位ヶ原山荘に向かう雪に覆われた車道に出る。東北方面に現れた西穂、奥穂の穂高連峰の姿にしばし見惚れる。



005 位ヶ原山荘

雪の積もった車道の端に一定間隔で立てられた赤旗に導かれながら、予想外に長い道のりを下っていくと、ようやく本日の宿営地、位ヶ原山荘に着く。山荘はご主人一人での営業だが、清潔ですべてがきちっとしている。名物の鹿鍋が美味である。

4/22 位ヶ原山荘一位ヶ原上部一肩の小屋下一朝日岳手前一乗鞍岳山頂（剣ヶ峰）－
位ヶ原－三本滝 BS－スキー場－スキー場前 BS＝新島々＝松本



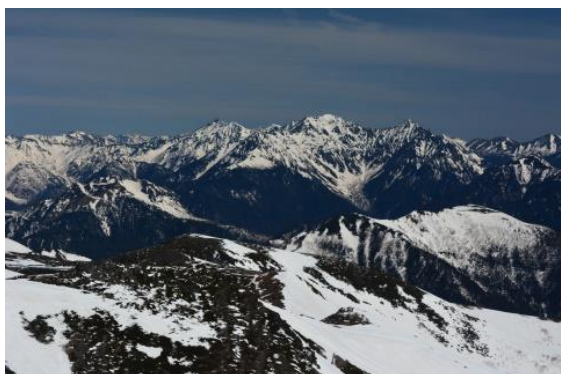
006 位ヶ原上部へ

アイゼンを装着、晴れ渡った空のもと、山荘の背後の急斜面を行く。樹木がなく大きく開けた斜面は雪崩の恐れがあるため、左側のトレースを辿っていく。



007 優美な剣ヶ峰

標高 2,500m 付近の位ヶ原の上部に出ると、眼前には美しい剣ヶ峰の雄姿が迫る。ハイマツ帯が雪に覆われ、一見なだらかに見える平原を登っていく。



008 穂高、槍の峰々

高度を上げ、喘ぎながら、肩の小屋下の急斜面を朝日岳寄りのルートをとって登っていく。標高 2,800m 付近では宇宙線研究所観測所が真横に見える。東北方向に穂高連峰、槍ヶ岳などの北アルプス連山の雄姿が現れる。感激もひとしおである。



009 ついにピークへ

朝日岳手前で稜線に上がり、右側の小ピークを越えて乗鞍山頂への最後の登り。標高 3,026m の頂上からは穂高連峰から黒部五郎までの北アのパノラマ、白山、御岳、中央・南アルプス、八ヶ岳などなど 360 度の絶景を堪能。



010 名残惜しい！

眺め飽きることのない眺望に別れを告げ、穂高の山々を見ながら斜面を行く。麓のスキー場 BS まで 1,500m 余もあるだけに、長い道のりだ。最後は雪も消え、地面が露出、枯れ草に覆われたグレンデを夏のような陽ざしに照り付けられ、疲労困憊しながら下った。